

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：タイ

日付：2014年8月20日

報告書名：平成26年 ジャパン・プラットフォーム 完了報告書

平成26年度 ジャパン・プラットフォーム 完了報告書

2014年8月20日

事業名	帰還準備促進のためのコミュニティ図書館サービス事業 Community library service project for promoting a return preparation	
事業対象地	タイ国境 7ヶ所の難民キャンプ	
事業期間	事業期間：2013年4月1日～2014年3月31日	
公的資金種別	ジャパン・プラットフォーム	
総支出・返還金	総支出：30,050,660円（返還額：2,152,006円）	
プロジェクト目標および、その達成度	「コミュニティ図書館サービスを通して、難民の人々が適切な学習機会と情報を得ることによって、帰還への準備が促進される」ことを目的に、本事業を実施した。 子ども、青年、大人の各世代のニーズに合わせて、図書を通じた学習機会、ミャンマー本国を含む様々な情報の提供を行った結果、この1年間でコミュニティ図書館と学校教育機関の連携が強まり、移動図書館活動やイベント、会議への参加等を通して、図書館と学校が協力して子どもたちの学習機会を支援する基盤が出来上がった。また、図書や情報掲示板を通して、難民キャンプ内の若者や大人が本国に関する情報を含む、様々な情報を得られる仕組みができ、さらにこの情報提供活動を通じて、UNHCR や CCSDPT (タイ難民・避難民サービス調整委員会)、難民キャンプ内の情報委員会等の関連機関との連携が強まった。	
実施内容 概要	1. 7ヶ所の難民キャンプにおける全21館の図書館サービスが、学校教育活動と連携される。 <活動> 1) 絵本や参考書の購入・配架 2) ビルマ語教科書・教師用ガイドの印刷・配布 3) 教員等向け図書館サービス実践研修の実施 4) 移動図書館の配備・活用 5) 青少年ボランティアによる読書推進活動の実施 6) 学校等と連携した年中行事の開催	裨益者： ・移動図書館利用学校： 最大71校（148校中） ・研修参加者：832人 （教員、ボランティア、図書館担当、図書館員など） ・3種イベント参加者： 12,527人
	2. 7ヶ所21館の図書館サービスで難民帰還を想定した課題に関わる情報や学習機会が提供される。 <活動> 1) 教育関係者向け図書館機能・運営研修の実施（TOT含む） 2) 本国に関する図書の購入・配架 3) 「帰還情報掲示板」の設置	裨益者： ・18歳以上の図書館利用者：延べ197,015人 （2013年4月～2014年3月） ・研修参加者：165人 （教育関係者、図書館委員会、図書館担当など）

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：タイ

日付：2014年8月20日

報告書名：平成26年 ジャパン・プラットフォーム 完了報告書

<p>成果</p>	<p><コンポーネント1> 学校教育との連携関係が強まり、学校における図書を通じた学習機会が増えた。 コミュニティ図書館と保育所、小学校、中・高等学校、ポスト高等学校を含む学校教育機関の連携が強まり、移動図書館活動やイベント、会議への参加等を通して、図書館と学校が協力して子どもたちの学習を支援する基盤が作られるという成果を達成した。特に保育所、小学校については、移動図書館活動を通して届いた絵本がクラスの中で使用され（保育所では読み聞かせがカリキュラムに含まれている）、さらに移動図書館活動以外にも、教員が学生を連れて図書館へ訪問する機会も多くあり、積極的に図書が利用される環境が整った。また、カレン語、ビルマ語の翻訳シールを貼り付けたタイ絵本の配架やビルマ語教科書の印刷は、特に低学年の子どもたちにとっては識字教育の機会にもなった。また、学校教員を通して子どもたちの保護者にも図書館サービスが広く知られるようになった。</p> <p><コンポーネント2> 図書や情報掲示板を通して、若者や大人が本国を含む様々な情報を得られるようになった。 図書や情報掲示板を通して、難民キャンプ内の若者や大人が本国に関する情報を含む、様々な情報を得られる仕組みが作られた。さらに、副次的な効果として、図書館の情報提供機能が関係団体間で認識されるようになり、2014年以降、UNHCRと連携したPCの提供、情報共有センターとの連携強化が進んだ。本事業期間内に情報提供の仕組みの基盤が出来上がったが、さらに住民のニーズを満たす情報提供を実施する為、事業第2期においては、住民への情報提供に関する満足度調査の実施や、教育関係者、図書館関係者と共に図書館の情報提供機能の向上に向けた話し合いを実施していく。</p>
<p>課題と対応策</p>	<p>コンポーネント1：難民キャンプ内学校教育への学習支援活動に関して、以下のような課題が見られた。</p> <p><課題> 中・高等学校、ポスト高等学校については、移動図書館の利用率は目標値を下回った。その理由としては、①難民キャンプへの参考書の提供タイミングが10月になり、学校に対して十分な冊数の参考図書を提供できるまでに時間を要したこと、②クラスで直接利用できるようなカリキュラムに沿った図書が少なかったこと、③すでに学校図書館が設置されている学校において、移動図書館サービスを使うメリットが明確になっていなかったこと等が挙げられる。</p> <p><対応策> 事業第2期においては、移動図書館活動におけるこれらの課題を考慮し、新学期に合わせた参考書の提供、カリキュラムを考慮した参考書の選定、中・高等学校、ポスト高等学校の教員へ向けた参考書内容の紹介等を実施していく。</p>